

縄文人の起源と日本への移住時期、そして弥生人との関係は

日本経済新聞の昨年9月2日（記事1）と昨日の記事（記事2）より、DNA解析の結果より現在明らかとなっている縄文人と弥生人の関係は次のようになる。

	縄文人	弥生人
起源	約3万8千年～1万8千年前に大陸の集団（ホアビン文化民族、現在のラオス付近）より別れた（記事1）	
日本列島への定住	1万数千年前から約2300年前に暮らしていた（記事1） 約1万6千年前から3千年前まで暮らしていた（記事2）	約2500年前にはアジア大陸から九州地方に渡り、米作りを始めていた（記事1）
特徴	丸顔、鼻が高く、エラが張っている（記事1） アルコールに強い（記事2）	面長、目は細く、顎は細い（記事1）
縄文人と弥生人の交雑（記事2）	縄文人と弥生人は交雑しながら現代の日本人へと移り変わっていった。	現在日本人中の縄文人遺伝子の割合 アイヌ7割、沖縄3割、本州1割

記事では縄文人に焦点が当てられているが、弥生人（Wikipedia）では次のようになっている。

縄文人骨の顔立ちや体形は一定しており、あまり大きな時期差や地域差は認められないが、広義の弥生人骨は割合と多様であり、地域差や時期差が大きい。縄文人そのもののような弥生人や縄文人に似た弥生人（縄文系弥生人）、大陸側（中国吉林省近く）にいた人々と身体的特徴が似ている弥生人（渡来系弥生人）、縄文系と渡来系が混合したような弥生人（混血系弥生人）、古墳時代の墳墓から抜け出てきたような弥生人（新弥生人）、さらに南九州には琉球諸島の貝塚人に似た弥生人（南九州弥生人）がいた。

近年のミトコンドリアDNAハプログループやY染色体ハプログループの研究によって、日本人と中国人・朝鮮人とのY染色体には違いがみられ、弥生時代開始以降に断続的に渡来人がやって来たものの、先住の縄文人とは完全に対立していた訳ではなく、融和、混血し

ていったものと考えられる。また日本列島には縄文時代以前から各方面から様々な人たちが日本へ流入し、弥生人も複数の系統が存在していたと推定される。

弥生時代は一般に2400年前ほどに開始したとされてきた。そもそも弥生時代とは、弥生土器が使われている時代という意味であったが、現在では水稻農耕技術を安定的に受容した段階以降を弥生時代とするという考えが定着している。水稻には朝鮮半島から海を渡って直接日本に渡来したものと、山東半島から日本へ渡来したものとがあるとする説が有力視されている。

参考までに、縄文人 (Wikipedia) は次のようになっている。

旧石器時代後の、約1万6,500年前の紀元前145世紀から約3,000年前の紀元前10世紀にわたる縄文時代の文化は、概ね現在の日本に分布していた。そのため、この地域に居住していた縄文土器を作る新石器時代人を縄文人と見ることが出来る。平均身長は男性が160cm弱、女性は150cm弱でがっしりとしており、彫りの深い顔立ちが特徴で、世界最古級の土器を作り、約5000年前の縄文中期には華麗な装飾をもつ火焰土器を創り出すなど独自の文化を築いた。東南アジアに起源をもつ人々ではないかと考えられてきたが、父系・母系両方の遺伝情報が入った核DNA解析の結果 (三貫地貝塚人骨、船泊遺跡縄文人骨)、東ユーラシアの人々の中では遺伝的に大きく異なる集団であることが判明した。

記事2

縄文人の起源 3万8000年前か

国立科学博物館

全ゲノム解析

全ゲノム解析で縄文人の起源に迫る

3.8万~1.8万年前
縄文人の祖先が大陸の人類集団からわかる

南西諸島や朝鮮半島などを通じて日本列島へ移動

縄文時代
1.6万~3000年前

礼文島 船泊遺跡 (今回、DNAを解析)



北海道・礼文島の船泊遺跡から発掘された縄文時代後期(約3800~3500年前)の女性人骨—国立科学博物館提供

国立科学博物館の神沢秀明研究員らは13日、縄文人の全ゲノム(遺伝情報)を解析し、縄文人が約3万8000年前、1万8000年前に大陸の集団からわかれたとみられることが分かったと発表。日本人の祖先がどこから来たのかといった謎にゲノムから初めて追った貴重なデータとなる。詳細を5月末にも学術誌で発表する。

国立遺伝学研究所や東京大学などと共に、礼文島の船泊遺跡で発掘された約3800年前の女性人骨のDNAを解析し、約10%受け継ぐ一方、北の歯からDNAを取り出した縄文時代後期の女性人骨のDNAを解析し、現代人のゲノム情報から船泊遺跡で発掘された女性人骨のDNA上の配列を特定した。

特定した配列を東アジアで現在暮らす人々の配列と比べた結果、縄文人の祖先となる集団が東アジアの人種に残った集団からわかれた時期が約3万8000年前から1万8000年前であることが判明した。

縄文人は日本列島に約1万6000年前から3000年前まで暮らしていたと考えられている。この中で、アフリカで生まれた人類集団がどのようから新に弥生人が大陸に東アジアの各地に広がったか研究の進展が期待される。

今後、研究チームはさらにデータの解析を進める。配列を公開して海外の研究機関との共同研究も検討していく。

DNA追いつ古代人に迫る

縄文時代に日本列島に住んでいた人たちはどこから来たのだろうか。縄文の遺跡で見つかった人骨の中の遺伝子を調べ、東南アジアの古代人に近いことが最近の研究で分かった。これと色んな仮説が重ねられてきたが、科学的に裏づけする証拠が乏しかった。遺伝情報に基づき、古代人が移動した過程を明らかにする研究が発表されると、期待されている。

愛知県豊橋市にある伊川津貝塚は、日本を代表する縄文遺跡だ。2010年にここで出土した、約8000年前の成人女性の骨がこの研究の立役者となった。金沢大学や北里大、国立歴史民俗博物館を中心とするグループが、頭部骨の中にわずかに残る遺伝子を注意深く採取し、全遺伝情報（ゲノム）を解読することに成功した。その情報を元に、この7月、縄文人の起源について成果を発表した。縄文人の祖先は東南アジアの古代人から来たという仮説が、この研究で初めて科学的に裏づけされた。

比較した相手は現在のアジアの人々や8000〜2000年前の東南アジアの古代人。0年前の東南アジアの古代人から来たという仮説が、この研究で初めて科学的に裏づけされた。縄文人の祖先は東南アジアの古代人から来たという仮説が、この研究で初めて科学的に裏づけされた。

縄文人東南アジア起源か

縄文時代の遺跡で見つかった人骨の中の遺伝子を調べ、東南アジアの古代人に近いことが最近の研究で分かった。これと色んな仮説が重ねられてきたが、科学的に裏づけする証拠が乏しかった。遺伝情報に基づき、古代人が移動した過程を明らかにする研究が発表されると、期待されている。

愛知県豊橋市にある伊川津貝塚は、日本を代表する縄文遺跡だ。2010年にここで出土した、約8000年前の成人女性の骨がこの研究の立役者となった。金沢大学や北里大、国立歴史民俗博物館を中心とするグループが、頭部骨の中にわずかに残る遺伝子を注意深く採取し、全遺伝情報（ゲノム）を解読することに成功した。その情報を元に、この7月、縄文人の起源について成果を発表した。縄文人の祖先は東南アジアの古代人から来たという仮説が、この研究で初めて科学的に裏づけされた。



縄文人と弥生人

互いに交流し日本人に

縄文人は1万数千年前から約2300年前に日本列島に暮らしていた。丸顔で鼻が高く、えらが張っている特徴がある。狩猟採集生活を送り、現在の台湾や朝鮮半島などを経由して移り住んだと考えられている。

遺伝子採取した人骨のあった伊川津貝塚（愛知県田原市）は約4000年前から2500年前の遺跡で、縄文後期から晩期にあたる。同貝塚で出土した動物や魚の骨、土器や石器から縄文時代の暮らしが読み取れる。

弥生人は約2500年前にはアジア大陸から九州地方に渡り、米作りを始めていたという。面長で目が細くあごは細い。徐々に日本列島全体に広がり、縄文人などと交流しながら現在の日本人へと移り変わっていった。

縄文時代の遺跡で見つかった人骨の中の遺伝子を調べ、東南アジアの古代人に近いことが最近の研究で分かった。これと色んな仮説が重ねられてきたが、科学的に裏づけする証拠が乏しかった。遺伝情報に基づき、古代人が移動した過程を明らかにする研究が発表されると、期待されている。

(福井健人)